

クルマ社会を問い直す会の活動 —弱者に温かい交通政策を求めて—

クルマ社会を問い直す会 足立礼子 里見岳男

<https://kuruma-toinaosu.org/> ada2022rei@yahoo.co.jp

はじめに

クルマ社会を問い直す会は 1995 年に発足した全国組織の市民活動団体で、会員は約 200 名います。会の目指すものとして

クルマ優先でなく人優先の社会へ。

安全に道を歩きたい。

排気ガス、クルマ騒音のない生活を。

公共交通、自転車は私たちの足。

守ろう地球。

減らそうクルマ、増やそう子どもの遊び道。

をスローガンに掲げています。また、次の 2 点を近年の活動の基本方針としています。

1) 人命優先、歩行者自転車優先の道路交通政策を求める。

2) 人の移動の安全と平等、環境保全、地域活性に必要な公共交通網の推進政策を求める。

1. 人命優先、歩行者自転車優先を求める活動

交通事故により今も年に 3 千人以上が死亡(厚生統計値)している現状を人権問題として重視しています。交通事故は当事者だけの責任ではなく、自動車車体の危険放置(安全弁欠如)、道路交通環境や運転免許制度の欠陥、違反罰則や刑罰の甘さなど、クルマの利便を優先する施策にも責任があり、その改善を求めています。会員には交通事故被害者遺族で理不尽な現実を根絶したいと闘っている人も何人もいます。

また、道路上の弱者(歩行者や自転車)が常に危険にさらされている現実も問題視しています。日本は、子どもや高齢者にも青壮年と同じ注意力や行動を求める傾向があることも憂慮し、弱者の能力や特性をふまえた安全対策が重要で

あるとメディアにも訴えています。

最近出した事故対策関連の主な要望・意見書

- ・交通事故削減のための運転免許制度等の要望
- ・自動車車両の安全性能向上対策を求める要望
- ・交通弱者の人命と安全な移動を最優先で守る道路交通対策を求める要望
- ・危険運転致死傷罪等のあり方見直しの要望
- ・横断歩道のない場所を横断する歩行者を非難する報道に再考を求める意見(報道機関宛)
- ・交通安全教育番組への意見(NHK宛)

2. 人の移動の安全と平等、公共交通網推進を求める活動

会員には鉄道やバス事業従事者、地方で本数の限られた公共交通を利用する人も少なからずおり、この問題もよく議論されています。

会では、国民の移動手段の最低限の保障は国の責務として、公共交通拡充への財政支援を求めています。また、地球環境問題も含め、クルマ利用を優遇する施策への反対意見なども出しています。

最近出した公共交通推進・クルマ削減関連の主な要望・意見書

- ・ガソリン補助金の打ち切りを提案
- ・自動車保険料の従量化に関する要望
- ・駐車料金のあり方の検討を求める要望書
- ・地方鉄道の路線維持と活性化への施策を求める意見
- ・運転労働者の労働条件を改善し、持続可能な輸送を求める要望
- ・「鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会」の提言への意見

3. 講演会開催などの活動

上記のような関係機関に向けての要望活動のほかに、クルマ社会の問題の学びの場として、各分野に詳しい方を招いて講演会を毎年最低1回は行っています。会員が講師を務めての公開学習講座も不定期で開催しています。一般の人にも広く参加を呼び掛けています(参加費無料。コロナ禍以降はオンライン併用)。

【2021年以降の主な講演会】(講師敬称略)

「交通犯罪裁判の現状と問題点」

青野 渉 (弁護士)

「移動と地域公共交通を考える」

西村 茂 (金沢大学名誉教授)

「職業運転手の労働問題」

川村 雅則 (北海学園大学教授・会員)

「ドイツの町の交通事情」 木村護郎クリストフ (上智大学教授・会員) & ご子息

「ボンエルフを日本にも」

葉袋 奈美子 (日本女子大学教授)

「車から公共交通への移行に必要な経済的施策とは」 小島 啓 (会員)

「子どもが幸せに育つまち：サドルの上から見た交通」(講演&対談) 宮田 浩介 (自転車政策研究者) & 岡田 百合香 (医師・会員)

「通学路 Vision・Zero の提案」

久保田 尚 (埼玉大学名誉教授)

他に会員間のミーティングも定期的に関き、互いの理解を深める機会としています。

4. イベント開催・交流

世間では知られていませんが、11月第3日曜日は国連が定めた「世界道路交通被害者の日」です。この日に会では大阪でイベントを共催し、東京と北海道の集いにも協力しています。

外部団体との交流では、2023~25年に「自転車利用環境向上会議」にポスター参加をしました。また、25年には台湾の歩行者権利擁護団体と意見交換を行う機会を得ました。

以前は、交通・まちづくり関連の会や横浜カーフリーデー、こども環境学会、子どもを守る文化会議などに参加していました。また多くの団体と交流して学びを得たいと考えています。

5. 会報などの発信

会報は年4回発行し、通算122号になります。公共交通ルポ、考察、川柳など会員の投稿も多彩です。会員執筆のVision・Zero等に関する冊子も複数発行しています。

ホームページでは、会の活動とともに、会報や冊子類もすべて公開しています。



おわりに

交通事故により今も多くの死傷者が出続けている現状について、国民の大半は黙認状態にあり、交通問題を考える場でも横に置かれがちです。しかし、クルマは社会に必要な乗り物だからこそ、死者・重傷者ゼロを目指す政策が求められます。日本の課題に即した実効性ある対策が進めば、自動車利用のハードルが上がる一方で、だれでも安全安心に移動できる公共交通が見直され、選択する人が増えることが期待されます。さらには公共交通網拡充への国民の理解が進むのではないのでしょうか。

当会は、名称からはどんな活動をしているか見えにくいと思いますが、人命尊重の温かい交通社会を望んでいることをご理解いただき、活動へのご助言をいただければ幸いです。